

通知 2016-01
平成28年2月23日

都道府県ホッケー協会 殿
都道府県競技部長・審判部長 殿
日本社会人ホッケー連盟 殿
日本学生ホッケー連盟 殿
全国高等学校体育連盟ホッケー専門部 殿
中学校部会 殿
スポーツ少年団部会 殿
ホッケー日本リーグ機構 殿
公認競技役員 殿

公益社団法人 日本ホッケー協会
技術委員会 委員長 中村 康夫

規則 13.2(フリーヒット)の変更について (通知)

平素より多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。
さて、2月16日付け国際ホッケー連盟（以下 FIH という）から、競技規則ならびに解釈の変更の発表がございました。（公社）日本ホッケー協会技術委員会で検討の結果、このたび次のとおり実施することといたしました。

つきましては、貴管下チーム等関係者に必ずお伝えいただき、3月以降の適用大会からスムーズに運営されますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2月14日に行われました全国ルール統一研修会後の発表でしたので、このような時期での通知になりましたことをご了承ください。

記

1 変更内容

- ① 23m エリア内での攻撃側フリーヒットは、ボールが 5m 以上移動するか、守備者に触れるかしない限り、サークル内でボールをプレイすることができない。
- ② 23m エリア内で攻撃側にフリーヒットが与えられた後時間が停止され、再開する場合には、両チームともにボールから 5m 以上離れなければならない。
※ 詳細は、別添のとおり

2 規則適用実施日

日本国内では、平成28年3月1日から適用といたします。

※ 国際では、平成28年2月16日から即時適用としています。

3 6人制規則について

6人制については、上記の「5m」を「4m」と読み替えて実施いたします。

4 その他

競技役員・審判有資格者の中に、メールアドレスをお持ちでない方がいらっしゃいます。通知の周知徹底を図るために、お手数ですが、各都道府県の競技部長及び審判部長の方は、貴管下有資格者の方々にお伝えくださいますよう、よろしくお願いいたします。

※ このことについて何かありましたら、下記まで問い合わせください

公益社団法人 日本ホッケー協会 技術委員会 審判部長 平尾 豊

TEL 090-7372-0054

Eメール a54_hirao@yahoo.co.jp

2015版 競技規則 13.2の改訂

概要

FIH規則委員会は、TDやコーチ、選手などからのフィードバックによって、最近変更したサークル付近 5m 以内での攻撃側のフリーヒットに関する規則は、運用面で問題なく実施されていると認識している。しかし、サークル付近5m以内での攻撃側のフリーヒットにおいて唯一、安全性の確保とフェアプレイの観点での明確化が求められていることも認識している。

その特定されている問題点としては、サークルエッジ付近のフリーヒットで、攻撃側がボールに触れた直後に他の攻撃プレイヤーが走り込んできて、危険になる可能性の高い強いヒットによってサークルにボールを打ち込むといった場合があるということである。

提案された改訂点は、規則の大きな変更はないが、23mエリア内での攻撃側のフリーヒットにおいて、潜在的にある危険なプレイやアンフェアなプレイを避けるために合理的に説明したものである。

具体的な現行規則の改正点とガイダンスは以下のとおりである。

23mエリア内での攻撃側フリーヒットでは、ボールを5m以上動かすか守備側プレイヤーが触るかしない限りサークル内でボールをプレイすることはできない。つまり、攻撃側が(23mエリア内での)フリーヒットでボールに触れた後にチームメイトが走り込んでサークル内でボールをプレイするような攻撃方法の可能性は断たれたということである。

追加したガイダンスが一部ある。それは、

「23mエリア内で攻撃側にフリーヒットが与えられたことに続いて、時間停止があった時、フリーヒットを行うプレイヤー以外はすべてボールから少なくとも5m離れなければならない。」(時間的ゆとりがあるので5m離れることが義務付けられた)

上記以外の規則とその注釈については、現行の規則を確実に継続することとなる。そして、2015年5月に別に通知した規則のガイダンス(日本での通達は9月4日)と合わせて適用する。

規則13.2は、以下のとおりとする。(追加したすべての改訂とガイダンスは、文章の横の部分にラインを引いて示している。)

13.2 フリーヒット、センターパス及びフィールド外にボールが出た後ボールを中に入れて再開する場合の方法

この項の規則は、フリーヒット、センターパス及びフィールド外にボールが出た後に、ボールを中に入れて試合を再開する場合のすべてにおいて適用される。

- a. ボールは、静止されなければならない。
- b. 相手チームのプレイヤーは、少なくとも5m離れなければならない。

相手チームのプレイヤーが、ボールから5m以内に立っていたとしても、そのプレイヤーがフリーヒットを妨げていない場合、あるいはボールをプレイしたりプレイしようとしていたりしていない場合は、そのフリーヒットを遅らせる必要はない。

- c. 攻撃側23mエリア内で攻撃側がフリーヒットを行う場合は、フリーヒットを行うプレイヤー以外のプレイヤーは、すべてボールから少なくとも5m以上離れていなければならない。しかし、後で示すサークルから5m以内での攻撃側のフリーヒットの場合は除く。
- d. ボールは、ヒット、プッシュ、フリックあるいはスクープを使って動かさなければならない。
- e. プッシュ、フリックまたはスクープを使って、ボールを直接浮かしてもかまわないが、ヒットを使って故意にボールを浮かすことは許されない。

- f. 攻撃側 23m 以内のエリアで攻撃側に与えられたフリーヒットでは、ボールが 5m 以上動かされるか、守備側プレイヤーによって触れられるまでは、サークル内にボールが入るようにプレイしてはならない。

フリーヒットを行ったプレイヤーが、続いてボールをプレイするならば；

(守備側プレイヤーがそのボールをプレイしていない時も含めて)

- フリーヒットをしたプレイヤーは、何度でもボールに触ることができるが、
- ボールを少なくとも 5m 以上動かさなければ、
- そのプレイヤーが、ヒットやプッシュなどでサークルにボールを打ち込むことはできない。

選択の余地として (二者択一)；

- 守備側プレイヤーがボールに触れた後であれば、フリーヒットを行ったプレイヤーを含めて他のだれであってもサークル内でボールをプレイすることができる。

サークルの 5m 以内での攻撃側のフリーヒットの場合、ボールを 5m 以上動かすか守備側プレイヤーが触るかしない限りサークル内でボールをプレイすることはできない。それは次のような場合のことである。サークル内にいてボールから 5m 以内にいる守備者はプレイを妨害することはないという前提で、サークルの中にいるのであれば、セルフパスでボールを動かしているプレイヤーを追って行っても構わない。ただし、ボールが 5m 動かされるかもしくは合法的にプレイできる守備側プレイヤーがボールに触るまでは、その守備者はボールをプレイしてはならない。

サークル内もしくはサークル外にいて、フリーヒットのポイントから 5m 以上離れているプレイヤーは、フリーヒットが行われるまではボールから 5m 以内に近づいていってはならない。

上記の場合 (5m 以上離れている守備側プレイヤーの場合) を除いては、ボールから 5m 以内にいる攻撃側や守備側プレイヤーは、ボールをプレイしたりプレイしようとしたり、妨害しようとしたりしてはならない。その場合は罰せられることとなる。

23m エリア内で攻撃側にフリーヒットが与えられた後で時間が停止され、その後リスタートするときには、フリーヒットを行うプレイヤー以外はすべてボールから 5m 以上離れなければならない。

ボールを、攻撃側サークルの上方を通過してサークル外へ落とすことは許される。これは、危険行為の規則に照らして、ボールが空中にあるときに、サークル内にいるプレイヤーが合法的にプレイできないのであれば問題ない。(サークル上空をボールが飛んでも、そのことでサークル内にボールが入ったとはみなさないということである。)

実施に当たって

上記の規則 13.2 及びそのガイダンスの改訂は、国際大会では即座に適用とする。特に、リオで行われるオリンピックに参加するチームにおいてはこの変更に応用できるように準備を整えてもらいたい。

また、通常の大会や各国においては、アウトドアシーズンに向けて適宜その状況に応じて適用して差し支えない。

FIH 規則委員会

2016. 2月16日